(C)十勝毎日新聞社

高木 国内最高 2位郷3位

スピードスケート 平昌五輪代表選考会 男子1000山田3位

【長野】スピードスケート　選考競技会（日本スケート連盟主催）第2日は28日、長野市のエムウェーブで男女の1000㍍が行われた。3枠の代表枠のある女子は高木美帆（日体大助手―日体大、帯南商高出）が1分14秒79で2位に入り、ワールドカップ（W杯）の前半戦の成績で既に内定の出ている1500㍍、前日の3000㍍と合わせて3種目で平昌五輪の出場を決めた。1位は1分14秒58の小平奈緒（相澤病院）。高木美と小平は共に国内最高記録、リンク新記録を樹立した。小平は500㍍と1000㍍で内定が出ていた。郷亜里砂（イヨテツ―池田高出）が1分9秒55の自己ベストで3位と健闘した。3枠あるが男子の派遣人数が最大8人のため、団体追い抜きなど他の種目との兼ね合いで、五輪代表は厳しい状況となっている。（北雅貴、金野和彦）

【女子1000㍍】スプリントのエース小平奈緒と同走し、競り合う高木美帆（左）。高木は、国内最高記録の１分14秒79のタイムで２位となり、3000㍍に続き、五輪出場を確実にした

1000㍍前哨戦 小平に迫る

女子1000㍍で２位に入った高木美帆は、表彰後に地元の子どもたちの祝福を受けながら花道を歩く

「いや～、負けて悔しいですね。食って掛かっていきたかったが、掛かりきれなかった」。今季世界記録をたたき出した小平奈緒に最後まで食らいつき、好勝負を演じた高木美帆は、苦笑いを浮かべながらも本音をもらした。

W杯の500㍍で昨季から15連勝中で、1000㍍も今季3勝の短距離の女王小平と、中長距離のエースの見応えのある対決。世界ランキング1位、2位の五輪金メダル争いの前哨戦に場内は沸いた。

直接対決は今季3度目。高木美は初めてインスタートとなった。スタートして想定外なことが起こった。スピードを抑えた小平と、それほど差がない状態で1周目のバックストレートへ。クロッシングゾーン手前から「前に出ないといけないという気持ちが強すぎて、滑りより足を動かすことに意識がいってしまった」。

スケートを滑らせるようにも、走るような感覚となり徐々に足に疲れがたまった。最後の1周は29秒17と出場選手中最速で、持ち味を出して貫禄は見せたものの「28秒台で帰ってくるイメージだった」とキレ不足を感じて悔しがった。

今季のW杯の3大会で小平に敗れて2位となり、勝ちたい気持ちが芽生えた。

「小平選手は強いなと感じるが、届かない距離ではない。かなわないなと落ち込んでいる気持ちもない。どうやったら勝てるかを細かく追求していきたい」。1500㍍が主戦場の高木美は、1000㍍も金メダルを視野に入れている。

郷 大会を重ね自信に

郷亜里砂が低地リンクでの自己ベストに0秒27届かなかったものの、着実に3位に滑り込んだ。力強さを増したスケーティングは発揮できたが、大会独特の緊張感から動きが硬く、後半の伸びをやや欠いた。4位の菊池彩花（富士急）とは0秒12の小差で五輪切符をつかみ、「課題の残るレースだったが、1000㍍でも表彰台に立ちたかったので、まずはほっとした」と、安堵（あんど）の笑みを浮かべた。

今季は高速リンクのカルガリーで1分14秒07をマーク。現在W杯のポイントランキング16位で、12番目の持ちタイムだ。「大会を重ねるたびに自信が付いている」と同時に、「タイムや順位が上がるにつれて、もっと上位選手との差を縮めたいと目標が高くなっている」とモチベーションにもつながっている。

根室管内別海町出身。3歳から始めたスケートは、高校で記録が伸びず、3年生でインターハイの500㍍に出るのがやっとだった。競技をやめて専門学校への進学も考えたこともある。父の季良さんに「逃げるのか」と言われてけんかになったことも。「あのとき競技を続けて良かったです」と笑う。

昨季までは500㍍に比べてやや苦手にしていた1000㍍でも力を付けてきた。「（高木）美帆や（小平）奈緒さんはまだまだ上にいる。もっともっと自分を高めていきたい」。今月12日に30歳となった郷は貪欲に成長を追い求める。

【女子1000㍍】スタート直後のカーブを攻める郷亜里砂

山田 好タイムも悔し涙

大学3年の山田将矢がシニアの全日本クラスで初の表彰台に上がった。自己ベストを1秒近く塗り替える1分9秒55。従来の国内最高記録に0秒22に迫る好タイムにも、終了後に悔しさから涙をにじませた。

【男子1000㍍】3位に入賞した山田将矢の気迫の滑走

600㍍までは大きな滑りで、カーブで加速する思い通りのスケーティングができた。W杯で戦っている同走の山中大地（電算）に肉薄。「ここからだというところで雰囲気にのまれて足が動かなくなった」と、残り1周でやや詰めたものの一歩届かなかった。

池田高2年時のインターハイ500㍍で優勝した逸材。大学入学後から2年間悩まされた腰痛が治った五輪イヤーの今季、陸上トレーニングからしっかりと体を追い込むことができた。

「オリンピックを視野に入れて強い気持ちで取り組んできた。日々を大切にできていた」。短距離2種目で躍進を続け、前日の500㍍は35秒16と自己記録を0秒04更新し、得意の1000㍍に懸けていた。

日本代表の男子8人は、W杯前半戦の成績から、世界と戦える種目に優先的に決まる。団体追い抜きや500㍍が強く、1000㍍は優勝者の小田卓朗（水戸開研）でさえ微妙な状況だ。

大舞台での表彰台。喜びはもっと大きいものだと思っていた。感じたのは予想以上の悔しさ。「オリンピックへの思いがより強まった。パワーを付けて、4年後に（五輪に）出られるようにスケートに取り組みたい」と前を向いた。

（28日・７位以下関係分）

【男子】
▽1000㍍

世界記録	シャニー・デービス（米国）	1分６秒42
日本記録	小田　卓朗（水戸開研）	1分７秒83
国内最高記録	小田　卓朗（水戸開研）	1分９秒33
リンク記録	キエルド・ナウス（オランダ）	1分８秒46
①小田　卓朗（水戸開研）		1分９秒24
		＝国内最高
②山中　大地（電算）		1・9・45
③山田　将矢（日大一池田高出）		1・9・55
④中村　駿佑（EH）		1・9・74
⑤近藤　太郎（ANAAS）		1・9・84
⑥藤野　裕人（茨城県競技力本部）		1・9・95

⑦小坂龍（福井県体協一専大、白樺学園高出）1・10・19⑧長谷川翼（日本電産サンキョー一日大、同高出）1・10・34⑨松井大和（日大一鹿追高出）1・10・36⑩大和田真（日本建物管財一北翔大、本別高出）1・10・574⑪羽賀亮平（日本電産サンキョー一日大、白樺学園高出）1・10・579⑬三輪準也（フィットラボ一法大、同高出）1・10・66⑭大和田司（味のちぬや一北翔大、同高出）1・10・97⑯池田崇将（福井県体協一専大、同高出）1・11・31⑰後藤卓也（同一日大、帯農高出）1・11・59⑱村上右磨（村上電気）1・12・02⑲久保向希（白樺学園高）1・12・12

【女子】
▽1000㍍

世界記録	小平　奈緒（相澤病院）	1分12秒09
日本記録	小平　奈緒（相澤病院）	1分12秒09
国内最高記録	高木　美帆（日体大助手）	1分14秒89
リンク記録	ヘザー・ベルフスマ（米国）	1分14秒81
①小平　奈緒（相澤病院）		1分14秒58
②高木　美帆（日体大助手一日体大、帯南商高出）		1・14・79
		＝以上国内最高、リンク新
③郷　亜里砂（イヨテツ一山梨学院大、白樺学園高出）		1・15・91
④菊池　彩花（富士急）		1・16・03
⑤神谷衣理那（高堂建設）		1・16・48
⑥辻　　麻希（開西病院）		1・16・57

⑧辻本有沙（電算一信州大、白樺学園高出）1・17・85⑩浅野実久（高崎健大一帯南商高出）1・18・87⑭宇佐見鈴音（日体大一帯農高出）1・19・88⑮川村聖亜（イヨテツ一白樺学園高出）1・20・13⑰山根佳子（日体大一帯柏葉高出）1・20・79⑱永田希絵（福井県体協一高崎健大、帯南商高出）1・20・92

神谷5位、辻6位

女子1000㍍の神谷衣理那（高堂建設）は5位、辻麻希（開西病院）は6位、辻本有沙（電算―信州大、白樺学園高出）は8位。男子は1分9秒24の国内最高記録をマークした小田卓朗（水戸開研）が優勝した。長谷川翼（日本電産サンキョー―日大、白樺学園高出）は8位、羽賀亮平（同―同大、同高出）は11位、大和田司（味のちぬや―北翔大、同高出）は14位だった。

連続出場ならず「今の力出せた」　辻

○…「悔しいですが、今の力は出せた。最後まで足が動いていたので、昨日（の500㍍）よりもいい滑りはできた」。3位の郷亜里砂に0秒66届かず、6位に終わった辻麻希は目に涙をためて振り返った。

アウトスタートで、同走選手が最初から遅れたため、一度も前を追う展開にならず、空気抵抗も軽減できなかった。「（前を追えれば）600㍍の通過で展開が変わったかもしれないが、組み合わせも実力のうち。結果を出せるだけの力がなかっただけ」とつぶやいた。短距離での2大会連続五輪出場はならなかった。32歳の辻は今後について「いろいろな人と相談しながら考えていけたらと思う」と話した。